

さまざまな人の生き方や事柄を取り上げ、改めて対馬で暮らす私たちの在り方や生き方を考えていく新シリーズ「**対馬で生きる 対馬をつなぐ**」。
初回の今月は、一本釣り漁師の細井 尉佐義さんほそい いさよしにスポットをあてます。



細井 尉佐義さん（上対馬町在住）
佐世保市鹿町町出身 40歳

長崎県内の高校を卒業後上京し、宅配ドライバーとして5年間勤務。都会での生活に違和感を抱きはじめていた頃、通勤途中の事故に遭遇。その時読んだ雑誌に心動かされ、作家CWニコル氏が創設した専門学校で自然環境やアウトドアを学び始める。同時期、ヒッチハイクで全国を旅する。

卒業後いつか漁師になることを決意しつつも、神奈川県国民宿舎「丹沢ホーム」に就職し、丹沢山系で3年間の山暮らしを経験。ここで知り合った奥様と、永住の地を探し求め12年前に対馬へ。一本釣り漁師として生計を立てる傍ら、インターネットを通じた漁師直販流通の開拓や、海洋資源保護への積極的な取り組みのほか、最近では漁船を利用した海上バードウォッチングも展開。

昨年大みそかのテレビ特番「アイアンシェフ」では、細井さんの釣り上げた“ブリ”を、和の鉄人：道場六三郎氏が調理し話題を呼んだのも記憶に新しい。

移住者だからこそ客観的に捕らえる 魚の美味しさ！

インターネットで魚を直販

インターネットで直販するようになってもう7年です。売り上げを伸ばすという目的はもちろんでしたが、出荷した魚の多くが、逸品であるにも関わらず「対馬産」「長崎産」で済まされ、特別な鮮度処理をしても同じ扱いになるの

が納得できなかったんです。ならば自分なりの方法で開拓していこうと。安い・売れないと嘆くばかりでは自分も周りも漁師の未来はありません。

もちろん今もほとんどは漁協を介しています。ホームページを立ち上げレストランなどに売り込み

ました。都会に出たら自ら飛び込みで飲食店へ営業することもあります。次第にお客さんが増え、今は都市部を中心に利用してもらっています。お客さんの声は予想以上の高評価。2日たつてもきちんと処理をすれば「こんなに美味しい」と言っていたけます。直販はダイレクトに意見がもらえるので勉強になるし試行錯誤を繰り返しながらお客さんに育ててもらいました。相当神経使いますけど…。

今は自分が窓口になり、

漁師仲間5人でアジ・サバ・アナゴといった季節の魚を提供していますが、いずれは漁師それぞれがサイトを運営していければと期待しています。1分でも早く消費者に届けたい気持ちみんな同じ、でもこんな場所だからこそ資源が残っているし、いつも手に入らないから魅力がある。

一本釣りにこだわりの、一匹一匹を個々の商品として扱い、味覚にストーリーを加えたいんです。



ホームページで注文のチェック！ 消費者の「生」の声と直に繋がります



細井さんが運営するサイト <http://www.kaikomaru.com>



魚はもちろん氷の大きさにもこだわり、自ら発送

漁師が一番知っている海のことだから…



通称「細井小屋」でお客さんに海を語る
漁師との交流でさらに旅の満足度アップ

海上バードウォッチングで 島の魅力を発信

約2年前に愛船「海子丸」かいこまるで始め

た海上バードウォッチングは、海鳥の汚染調査をしていた専門家を乗せるため、許可申請をとったのがきっかけでした。もともと野鳥にも興味があつたし、観光にも活かせたらと思つたんです。これなら漁師やりながら出来るし、手間はかかるけど、新たな経費もいらない。資源へのインパクトも少なく済みます。それに観光しながら海の環境を知ってもらうきっかけにもなります。あくまでも漁業が主ですから特別な営業活動はしていませんが、これまでに野鳥の会やモニター客の案内などを引き受けました。

珍しい鳥たちを間近で
みれるのも海上ならではの



4月には、野鳥マニアをターゲットにした大手旅行社の予約が入っています。カンムリウミスズメといった超レアな海鳥をはじめ、春は渡りの途中も見れるチャンスです。ミサゴの巣もベストショットがあります。名前は分からないけど漁師がいとも見ている鳥たちが実は珍鳥だったりするんですね。真剣にやったら図鑑を変えるような分野だと思う程ですよ！海上バードウォッチングは、外からやってくるお客さんの「対馬を楽しむ一つのスパイス」。そんな位置づけで魅力を発信していきたいと思っています。

とんちゃん部隊への参加と社団法人の

立ち上げで人材育成と地域づくり

「とんちゃん」を使って対馬に人を呼び込みたい！特に魚の旨さを知って欲しい！漁師さんを応援したい！部隊の仲間からそんな声を聞き、昨年10月のB-1グランプリからメンバーに加わりました。島おこし協働隊やヤマネコセンターの職員と共に「どうすれば対馬に興味を持ってもらえるか？来たいと思ってもらえるか？」を考えました。

当日は漁師のカツパを着てブースに並んでいただいてるお客さん一人ひとりに海のことや交通アクセスなど知る限りの対馬情報を伝えました。移住者だから話せる対馬の魅力もありますから。2

日間で何千人もの人と出会い話すことができたのは大きな収穫でした。ただ、あの3日間の海は風で絶好の漁日和。3人の子どもを食べさせなさいいけない私にはキツイものもありましたけど…。

これからも、漁業を含め全国の皆さんに対馬をアピールしていきたいと思っています。



います。本当に対馬の魅力を知ってもらうためには、やはり対馬に住む一人ひとり誰もが対馬を語れないといけません。近々、歴史だつたり、花だつたり島内の専門家を講師に、定期的な勉強会を開く準備も進めているところです。

先日、とんちゃん部隊でも一緒に活動した島おこし協働隊の木村幹子さんと4人で環境保全や地域振興などを行う社団法人を立ち上げました。対馬に惹かれずと住み続けたいと思つた移住者が集まり、これからもいろんなことに挑戦していきます。

細井さんを語る…

この辺りでは全く思いつきもしなかったことを彼はやってくれます。インターネットによる魚の販売には私も魚を提供させてもらっていますが、今は彼におんぶに抱っこ。自分の将来のためにも新しい分野を勉強していきたいという気持ちになりました。海上バードウォッチングも一緒にやってみたいと思っています。私の船で一年修行していた彼は根性が人一倍でした。取り組む姿勢が違うんです。地域にとって彼はまさに「新しい風」ですね。

漁の師匠 扇 康一さん

魚を捕り過ぎないで資源を残しながらの漁にこだわるのが主人らしいと思います。「今日の漁はすごく楽しかった！」という声を聞いたときは漁師になることができてよかったんだなって。排気ガスで汚れた空気の中で育った私には、こんなきれいな空気のところで子育てできるのは本当に嬉しいことです。主人の釣った魚や自家製野菜、口にするとものが自給自足できて、子どもたちと一緒に水やりや収穫ができて…、そんな日常に島暮らしの豊かさを感じます。

妻の尚美さん

細井さんは、いろんな地域を見た上で対馬を選んだ人。知識や経験も豊富な上に、対馬の将来や環境保全について強い思いを持っています。お魚の通販も一人でやるんじゃなくて地域の漁業者を巻き込んでやっているところがすごいと感じます。周りを動かすパワーと魅力に溢れた人です。対馬の地域づくりや環境保全を考えると漁業は避けて通れない分野。だからこそ細井さんの存在は欠かせません。

島おこし協働隊 木村 幹子さん

一本釣り漁師として生きる細井さんの愛船の名は「海子丸」。^{かいこまる}いつでも、おごることなく海の子どもでありたい。そんな思いと決意がこめられています。

「当たり前」だと思うと、何も生まれないかもしれません。しかし、^あ「有り難い」^{がた}と気づくことで私たちの生き方は変わるはず。

「自然への敬意」「繋がり」「支え合い」

細井さんの生き方には、対馬で生きていくヒントが溢れています。